

最近話題となっている病害虫

埼玉県農業技術研究センター 病害虫研究担当 専門研究員 浅野 亘

サクセスキクイムシ

学名： *Xyleborinus saxesenii* (Ratzeburg)

■はじめに

サクセスキクイムシ *Xyleborinus saxesenii* (Ratzeburg) はコウチュウ目キクイムシ科に属し、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリア等、世界に広く分布する。ナシ果実への穿孔被害は2005年に千葉県で確認され、その後各地のナシ産地で被害が確認された。2022年9月現在9県で特殊報が発表されている。

■生態と被害

雌成虫の体長は2mm程度、細長い円筒形で、光沢のある黒褐色をしている(図1)。年1~2回発生する。成虫態で樹内越冬し、4~5月に脱出して樹勢の弱い樹の枝幹に穿孔する。孔道は直径約0.7mmで、そこから粉状の細かい木屑(フラス)を排出する。寄主範囲は広く、各種針葉樹、広葉樹に寄生する。果樹類ではナシ、リンゴ、モモ、カキ、クリ、キウイフルーツの枝幹部への穿孔被害が確認されている。

ナシ果実への被害は、成虫が果実内部に食入することで生じる穿孔被害である。果実の側面から穿孔することが多く、直径1mm程度の穴を開けて穿孔する。被害果は日数の経過とともに穿孔部分から腐敗し、一様に褐変する。果実のていあ部(枝についている側の反対側にあるくぼみ)から穿孔することもあり、フラスの排出が目印となる(図2、3)。本県では主に「豊水」(本県での収穫期は8月下旬~9月上旬)で被害が確認されているが、収穫の遅れた「幸水」(8月下旬に収穫)や「あきづき」(本県での収穫期は9月上旬~9月中旬)での被害もみられた。



図1 サクセスキクイムシ成虫

■防除対策

本種は、樹勢が低下したナシの枝幹を加害するため、適正な肥培管理等により樹勢の維持、回復に努める。衰弱の激しい樹は伐採し、せん定した枝幹も含めて適切に処分する。被害果を確認した場合は、周辺の枝幹でも穿孔被害が発生している可能性が高いので、フラスを目印にして被害樹がないか園内をよく観察する。枝幹被害を確認した場合は、成虫活動時期の4~5月にマラソン・MEP乳剤を樹幹部に十分に散布する。



図2 被害果の断面(ナシのていあ部からの穿孔被害)

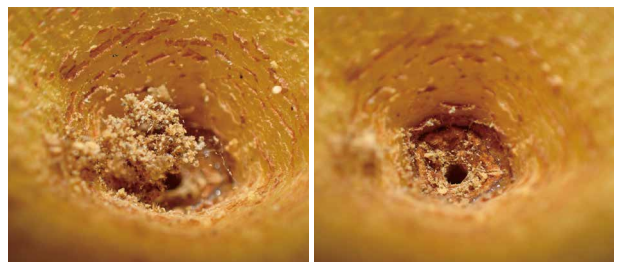


図3 ナシのていあ部からの穿孔(左: フラスあり、右: フラスを除いた様子)

参考文献:

- 後藤秀章(2009) 日本産キクイムシ類分類学研究の歴史と種のリスト. 日林誌 91: 479-485
- 茨城県病害虫防除所(2021) 令和3年度病害虫発生予察 特殊報第2号
- Rabaglia, R. J., S. A. Dole, and A. I. Cognato (2006) Review of American Xyleborina (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae) Occurring North of Mexico, with an Illustrated Key. Ann. Entomol. Soc. Am. 99(6):1034-1056
- 埼玉県病害虫防除所(2021) 令和3年度病害虫発生予察 特殊報第2号
- 高橋功(2006) ニホンナシを加害するキクイムシ類. 植物防疫 60: 62-66